# cafe talk_08

**08号の制作に関わったクリエイターと、enocoスタッフによるカフェトーク。**
**大阪のデザイナーたちの頼れる兄貴分（某氏談）、意外にもパンケーキにノリノリです。**

**ゲスト　峠田充謙さん　デザイナー**

2013 年より「デザイン峠」主宰。天王寺動物園ロゴマーク、ヘアワックスDEUXERなど、グラフィック、パッケージを主体に、商品プロデュース、プロダクトデザイン等幅広く活動。2014年より「UTON Project 」ディレクター。2015年より京都精華大学非常勤講師。受賞/入選にHKDA 銅賞・審査員賞、NY ADC 、NY TDC、日本タイポグラフィ年鑑ベストワーク、台湾国際デザインアワード finalist等多数

**—— 今回、特集ページはちょっと読むのに気合いというかコツがいるといいますか…どんなコンセプトなんでしょう？**

**峠田**　これまで意外とマジメで読みやすい紙面が続いていたので、思い切って遊んでみようかと（笑）。特集の内容に合わせて、「人」という文字のパターンや、シェアオフィスによくあるパーテーションの形をイメイージしてデザインしています。

**—— ロゴから紙もの、プロダクトまで、色んなお仕事をされている峠田さんですが、最近ではジャムも作っていらっしゃるとか。**

**峠田**　「UTON project」という活動の一つです。奈良の柿農家の方から規格外の作物について相談を受けて、友達の料理人たちと一緒に作っています。デザインをする だけではなく、男４人で一日ががりで柿を剥いたり、充填作業や配達までしてます。量産できないので全然儲からないんですが、けっこう楽しいで す。

**—— プロジェクト型のデザインというか、ストーリー性のあるものづくりというか、そういう意識からの活動なんでしょうか？**

**峠田**　まあそれもあるんですが、実際はそんな大それたことじゃないです。単純に、小さな相談の中から何かの可能性につながるような気がしているんですよね。色んな広がりが生まれていけばいいなと思ってます。

**ninOval cafe**

enoco地下1階　営業時間：11:00ー18:30（月曜日定休）

**寒い季節にぴったり、ホットチョコレートのパンケーキ**
**ふわふわに仕上げた生地に温かいチョコソースとたっぷりのホイップクリーム、お店で焼いている自家製のグラノーラがかかった「ホットチョコレートのパンケーキ（自家製グラノーラがけ）」は安定の人気！ほのかな甘さの生地とチョコソースのビターな香りが口の中に広がります。トッピングのグラノーラの香ばしさがアクセント。パンケーキに合うホットドリンクも多数取りそろえております。**

---

enokojima creates osaka
enoco

**大阪府立江之子島文化芸術創造センター[enoco]**
**Enokojima Art, Culture and Creative Center, Osaka Prefecture**

アートやデザインの創造力で、都市を元気にすることを目指し2012年4月にオープン。展示室や多目的室のレンタル事業を行うほか、企画展や公演、セミナー・ワークショップなどを開催し、クリエイティブな人や情報が行き交うプラットフォームとなることを目指しています。

〒550-0006　大阪市西区江之子島2丁目1番34号
開館時間：10:00〜21:00（ただし展示室は11:00〜19:00・日曜日は11:00〜16:00）
月曜・年末年始休館
電　話　　06-6441-8050｜FAX：06-6441-8151
メール　　art@enokojima-art.jp
**www.enokojima-art.jp**

[アクセス]
大阪市営地下鉄千日前線・中央線「阿波座駅」下車、8番出口から西へ約150m。徒歩約3分。

**enocoニュースレター 08**
2016年1月発行
「enocoニュースレター」は、enocoが年４回発行する情報誌。enocoで起こっていることや、enocoにかかわる人々が日々考えていることをお伝えしていきます。

｜発行｜大阪府立江之子島文化芸術創造センター　｜編集｜峯恵子（enoco 企画部門）
｜表紙・特集ページデザイン｜峠田充謙（design tôge〈設計峠〉）
｜アートディレクション｜後藤哲也（000 Projects）　｜デザイン｜小池一馬（000 Projects）
｜イラスト（エノケン、似顔絵）｜タダユキヒロ



# enoco newsletter

08

**08号の表紙　デザイン　峠田充謙**

江之子島文化芸術創造センターenocoがお送りする「enocoニュースレター」。表紙と巻頭は、毎号異なる関西のクリエイターたちが担当します。まちの情報が集まる「イエローページ」を連想させる鮮やかな黄色い表紙の08号。特集では、enoco館内のシェアスペース「クリエイティブルーム／クリエイティブシェアルーム」についてご紹介します。江之子島に棲息する人々のちょっとユルくてクリエイティブな日常を垣間見つつ、クリエイターの働きかたや拠点づくりについて考えます。
http://www.enokojima-art.jp/

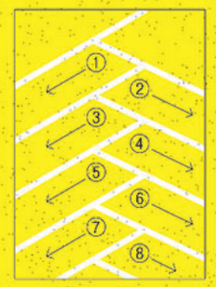
江之子島文化芸術創造センター｜enocoニュースレター｜2016｜08

enoco creative room

# 人と人とがつながる拠点

## enoco「クリエイティブルーム」の住人たち

**enocoでは、クリエイター同士の活動や交流を支援し、協働するきっかけを生むプラットフォームづくりを目指しています。その一環として、個人・団体が入居し、長期的に活用することのできる「クリエイティブルーム/クリエイティブシェアルーム」を館内に設けています。08号の特集では、enocoを拠点にまちづくり、アートマネジメント、教育、デザイン、映像制作など、さまざまな活動に取り組む、個性豊かなenocoの住人たちをご紹介しながら、クリエイターの多種多様な働きかたや、拠点の役割について考えます。**




**●enocoのオフィスではどんな働き方をされているんですか? フリーランスでお仕事をされている方々も多いかと思いますが…**

**古谷**：僕たちは今、「おおさかカンヴァス」という大阪府の事業の作品制作とか運営のマネジメントをしていまして、フリーランスのスタッフが5人集まって仕事をしています。みんな個人事業主で仕事のやり方がそれぞれ違うし、やっている内容も違ったりするので、いろんな意味でバラバラですね。自宅で仕事をするのが好きな人、ちゃんとオフィス的なところでするのが好きな人、いろいろです。週に1回は集まってenocoでミーティングをしようと決めて いるんですが、実は定期的に会うというのはそれくらいかもしれないです。

**奥村**：私はもともと映像で都市と都市をつなぐという活動をしていまして、映像制作の作業の半分くらい、特に編集作業なんかは家でやっています。enocoではどちらかといえば人に会う仕事だったりとか、原稿を書くのに集中するとか、使い分けはしてるかなっていう感じはしますね。

**古谷**：確かに家でできることと、外でやる仕事っていうのは分かれてますね。例えばメールの返信は家でもできるけど、図面を作ったり、出力して、赤入れて、手直ししてっていうのはちゃんとオフィスでやったほうがいいっていうのとか。

**小島**：それはあるかもね。僕も音楽関係の作業とかは家でやりますね。機材のこともあるし。僕は子どもの社会教育に関わるNPO cobonの一事業部として動いていて、そのNPOがオフィスを畳んで代表の家に事務所を置くということになって、じゃあ僕が代表の家に行って仕事をするかというと、そういうわけにもいかず、僕の部門だけ独立しようということになりました。

**田村**：僕はそれまで勤めていたデザインの会社を辞めて独立するとなったときに、家で仕事をするという選択肢ももちろんあったんですけど、それではちょっとテンション上がらんなと なって、どれだけやる気を出して仕事に取り組めるかはやっぱり環境が大事だと思っていたので。

**奥村**：田村さんは、いつもちゃんとオフィスに来て仕事してはるなというイメージがあります。

**田村**：はい。平日はほぼenocoで仕事してますね。基本的に一番乗りなので、まず鍵空けて窓空けて、空気通して。それでお昼頃小島さんが来て、あ～今日は奥村さん来えへんな、みたいな。それで夜はだいたい小島さんとどちらが最後に帰るかを競るという感じです(笑)。

**●水都大阪パートナーズさんは、組織の事務局という印象ですが、どんなお仕事の仕方なんでしょう?**

**佐井**：僕たちは月曜日から金曜日のオフィスアワーがあることはあるんですが、イベントが多いときには、現場に張り付いていることが多いですね。特にこの秋なんかはもう連休だのシルバーウィークだので気づけばずっと中之島にいてた…、みたいな印象です。ここはあくまで準備したり事務作業をしたり、いろいろ検討するための場所で、実際のフィールドは外、という意識はあるかもしれないです。

**古谷**：僕たちはenocoができた年、三年前に入居をしたんですが、具体的には、大阪府主催の事業である「おおさかカンヴァス」の事務局運営のために拠点が必要だったということと、enocoとの協働のようなことも含めて考えて、ここに拠点を置くことになりました。

**小島**：僕は初めは古谷くんと一緒におおさかカンヴァスの仕事でenocoに出入りするようになりました。その後、自分用の事務所が必要になって、自分でもいろいろ探していた折に、募集がかかったので すぐに手を挙げたんです。府立の施設の中に拠点があるということで信頼にも繋がりやすいし、実は「西区」って、住所交換のときの反応もなかなか良いんです(笑)。

**●enocoに拠点を置くようになったきっかけは?**

**奥村**：私は、大阪の水辺の映像を制作するというお仕事で水都大阪パートナーズさんとお知り合いになって、何度かenocoの事務所に寄せていただいていたのがきっかけです。その頃、私も色んなシェアオフィスを見て回っていたんですが、人間関係が濃すぎる感じのところや、逆に「○○円で空いている席を使いなさい」というようなドライなところもあって、「どこもしっくりけえへんな～」と思っていたんです。その流れでenocoを覗かせてもらったら、なんとなくゆるい感じというか。

**小島**：そのときまだ僕一人やったからや(笑)。

**奥村**：そうそう。それで居心地よさそうやなと思って。

**田村**：僕が入ったのはお2人の後なんですが、もともと江之子島のことは何となく知っていました。学生のときに

# 人と人とがつながる拠点

## enoco「クリエイティブルーム」の住人たち

油絵を描いたりしていたので、大阪界隈のギャラリーのことはいつも気にかけていて、現代美術センターの機能ががenocoに引き継がれたというので興味を持っていたんです。それで独立するときに拠点をいろいろ探して回って、ここにもシェアオフィスがあるということを見つけて、というのがきっかけですね。

**●日々それぞれ色々な働き方をされている皆さんですが、個別のスペースではなくシェアオフィスに拠点を置くことのメリットはありますか?**

**小島**：僕らはほぼ個人事業主みたいなものなのですが、日常的に関わっている人たちの中から新しく何かが生まれる可能性は間違いなく増えますよね。刺激ということでもそうだし、具体的に一緒に何かやろうとなる場合もあります。それぞれの専門領域が違うので、例えばワークショップで使う映像の撮り方を映像専門の奥村さんに教えてもらうということもありました。

**田村**：ありましたね!とりあえずその場では、同室の3人で話を回しながら色々試してみて、「3人おったら文殊の知恵やわ〜」という感想でまとまりました。(笑)

**奥村**：たまたま自分のデスクのまわりに貼っていた企画のポスターなんかを見て、打合せなどで他のブース来たお客さんに声をかけてもらうようなこともあります。人のつながりがじわじわと広がっていくのを感じますね。

**田村**：僕は、シェアルームに打合せで来られるクリエイターの方々と、とりあえず名刺を交換させていただくことにしているんです。仕事があるとかないとかに関係なく。今、それがご縁で実際に制作に取りかかっている案件もあります。言ってみれば「リアルSNS」みたいな感じですかね。ちょっとスピードは遅いかもしれないんですが、確実につながっていくなというのは実感していて。しかもそれでビジネスとして動けるところまで来ているので、そういうのは良いなと思います。一人で仕事をしていると、どうしても難しいことなので、それは有り難いですね。みなさんすごく顔が広い上にバラエティーがすごいんです。もちろんクリエイターさんが多いんですけど、大学の先生も来られるし、美術関係も…恐れ多い方と名刺交換をする機会もあります。

**佐井**：あとはこの施設の特性というのも僕らにとっては大きいです。館内で展覧会やイベントがあれば、仕事の途中や昼休みにふらっと見に行くこともできるし、色々な施設の展覧会やイベントの情報を閲覧できるコーナーがあったりもする。僕らの仕事はまちづくりへの市民参加を促すとか、アートを効果的に取り入れるとか、そういうことをずっとやってきているので、enocoに集まってくる色んな情報に触れることで発見があります。でもまだまだ僕らはただオフィスに来て、打合せして、その繰り返しみたいなところがあるから、enocoそのものを使い切れてないという感じがします。ライブラリーにもいろいろな資料があったりするので、もっと活用できればと思っています。

**●皆さんのコラボレーションの可能性について、今後のイメージなどはありますか?**

**古谷**：今のところは「さあ、みんなで一緒に何かやりましょう!」というのは違うかなと思っていて、「タイミングが合えば何か始まる」という感じがすごく心地よいなと思っています。

**奥村**：そう思います。私自身もできるだけ、「この人とこの人は繋がりそうだから紹介しておこう」ということは意識しています。さっきのお話のように、それが実際の仕事につながるということ起こっているので、そういう意味では自然な広がりが面白いなと思いますね。

**佐井**：入居者だけじゃなくて、利用者同士でもいろいろ考えられますよね。例えば、enocoで展覧会をされている方々で、写真のサークルめちゃくちゃ多くないですか?シニアの方もいれば、若い女性なんかもいて。主催者同士がつながると面白そうだなと思うんですよね。もしかするとライバル同士とかもあるのかもしれへんけど(笑)。

**●最後に、江之子島生活の魅力を教えてください。**

**小島**：江之子島って、適度に真ん中じゃないじゃないですか。御堂筋沿いとかじゃなくって。オフィスとしてはちょっと都心から外れてるのが個人的にはいいですね。

**奥村**：私はいま30分かけて自転車通勤してます。気分転換と、ちょうどいい運動になりますよ。

**佐井**：ちょっと僕らの事業の宣伝になりますけど、COIDECOっていうこの界隈のコミュニティサイクルもあります。登録制で、30分無料で乗れますので。

**小島**：僕も自転車通勤で、事務所にも1台置いています。自転車があれば大阪市内はけっこうどこにでも出かけられるので、みんなのごはん情報を共有したりしたいですね。大きいマップ貼って、ランチはピンク、夜は青、みたいに決めて付箋を貼ったりして(笑)。

**古谷**：ランチマップは欲しいですね!うちにも、江之子島周辺のランチ情報を集めてるスタッフがいますよ。

**佐井**：あとは共有スペースの充実かな。マップを貼るスペースも必要だしね。そこはenocoさんにこれから頑張っていただくということで(笑)。



## 「クリエイティブルーム / クリエイティブシェアルーム」とは?

**さまざまな創造的活動を行う個人・団体が入居して、長期に活用いただくスペースです。
現在、enocoの2階フロアで3室が稼働中。
グループで1室利用できる「クリエイティブルーム」と、パーテーションで分かれた個人用のブースが設置されている「クリエイティブシェアルーム」に、
現在5組の個人・団体の皆さんが入居されています。**

ルーム7：

### 小島剛

(NPO cobon、タチョナ)

http://www.cobon.jp/
http://touchonart.net/

大学卒業後、即興音楽やコンピュータ音楽の音楽家として国内外で活動。2000年からアートディレクターとして大阪を中心にアートイベントやライブを企画。2011年にNPO cobonに青少年向け現代芸術体験プログラム“タチョナ〜 touch On Art〜プロジェクト”を立ち上げる。現在も自身が音楽家として活動しながら、小中学校やアート・センターなどでアーティストによる子ども向けの実験的なアートプログラムの企画・コーディネートを行なっている。

タチョナ×enoco「オヤトコエノコ」ワークショップ

ルーム7：

### 奥村恵美子

(クリエイティブハウスおくむら)

http://www.ceres.dti.ne.jp/~cho/

1986年、映像企画を主業務とするクリエイティブハウスおくむらを始める。企業の周年映像やPRビデオの企画制作を多数手がける。2000年10月、独立15周年記念に上映した「六甲の山荘 在Be」がアメリカとドイツの映画祭で受賞。その後、日本文化のエッセンスが感じられる建築、芸術、自然の映像化に取り組み始める。インタビューコメントを構成の骨子に置いたドキュメンタリー映像を得意とする。海外に向けての映像発信にも積極的に取り組む。2004年より任意団体「日本人のアイデンティティ文化発信実行委員会(JICP)」を組織。3ヶ月に1回会合を開き、日本の文化的アイデンティティを発掘、発見、発信している。

5月1日を撮ろうプロジェクト

ルーム7：

### 田村隆

(アシタヲデザイン)

http://ashitawo-design.jp

大阪芸術大学美術学科卒業後、ファインアートの分野で長く作家活動を行う。その後グラフィックデザインへ軸を移し、「アートとデザインの間を縫うような活動ができれば」という思いのもと、2014年よりenocoのクリエイティブシェアルームを拠点にアシタヲデザインを主宰。
現在は主に企業向けデザインツール(パンフレットやパッケージなど)や、美術展などのカタログやポスターの制作に取り組み、コンセプトメイクからグラフィックデザイン制作全般を行う。

写真左：JAGDA「やさしいハンカチ展」出展作品
写真右：番画廊「サヨナラbangarow展」出展作品

ルーム9：〈団体利用〉

### 古谷晃一郎

TSP大陽株式会社

http://www.tsp-taiyo.co.jp/

1975年大阪生まれ、演劇育ち。いくつかの文化系財団を経てフリーランスのアートコーディーネーターとして活動。大阪府主催の「おおさかカンヴァス」や山本能楽堂主催の新作能「水の輪」などのプロジェクトに関わる。

博覧会や国際イベントなどをはじめとする各種イベントの企画制作、会場施設の設計から施工、空間演出、会期中の運営に至るまで、イベント開催業務をトータルにサポートする。大阪においては、「おおさかカンヴァス」「中之島のっと」など、主要なアート・デザインに関するイベントの制作と運営のマネジメントを行っている。

大阪府主催おおさかカンヴァス2015選出作品「ローリングスシー」
撮影：SongGi Kim

ルーム10：〈団体利用〉

### 佐井秀樹

水都大阪パートナーズ

http://www.osaka-info.jp/suito/jp/

関西電力にて人事・教育を担当の後、マーケティング事業を経て、大阪の活性化を担当。水都大阪に関しては、光のまちづくり構想2020を策定し、OSAKA光のルネサンスのブランディングやホテル経営支援、観光まちづくりなどに取り組み、2013年より水都大阪パートナースプロデューサー。

大阪府、市、経済団体と連携しながら、世界に誇る「水と光の首都大阪」の実現に取り組む。現代アートなどを活用することで、眠っていたその土地の魅力を引き出し、水辺のシンボル空間と日常的なにぎわいの創出をめざすとともに、市民に向けて、また海外に向けた魅力発信を行う。

水都大阪フェス2013(中之島公園の様子)

# これからのイベント情報

各イベントの詳細・申し込み方法はホームページをご覧ください。

資金を集めて、夢を実現したい人を応援するセミナー

## クラウドファンディングセミナー @enoco　Vol.2

自分の夢を実現する資金を集める方法として今、注目を集めている“クラウドファンディング”。昨年、クラウドファンディング事業者の「FAAVO大阪」と大阪府（環境農林水産部）とが連携協定を締結したのを機に、enocoも協働し、環境やクリエイティブの分野で夢を実現したい人を応援しようという取り組みを進めています。
今回は資金を集めたい方々に夢を語っていただき、その夢に対し、多くの人々から資金を集めるための方法を「FAAVO大阪」とenocoの専門スタッフがその場でアドバイス。後日、「FAAVO大阪」の資金募集プロジェクトとして正式エントリーを行います。「これを実現したい！」という思いが、実際の資金募集アクションにどうつながっていくのか、そのプロセスを皆さんと共有し、今後、さらに多くの人が夢に挑戦するきっかけになることを目指します。
ー
概要：
日時：2016年1月27日（水） 18:30〜
会場：江之子島文化芸術創造センター[enoco]
参加費：無料
内容：クラウドファンディング基礎知識レクチャー／各チームによる「夢」発表／専門家によるアドバイス等
発表者：NPO法人里山倶楽部、アルブル木工教室　米地徳行、コタケマン、大阪工業大学チーム、等（予定）
※セミナー終了後に交流会を予定しています（ワンコイン制）

協力：FAAVO大阪

都会の冬に、焚き火とマルシェはいかがですか？

## えのこdeマルシェ ＋「ちび火」

春・夏・秋・冬と季節ごとに開催している、えのこdeマルシェ。冬のテーマは「焼く」。今回もカレーやポップコーンから新鮮なお野菜まで、個性豊かな食べものと、陶器の食器やアクセサリーなど雑貨のお店が集まりました。
会場には、アーティスト小山田徹さんの「ちっちゃい火を囲む」通称：ちび火（小さな焚き火ができる装置）をご用意しています。ちび火を囲んで温まるも良し。おしゃべりに興じるも良し。マルシェで買った食べ物を、その場で焼いて食べることもできます。楽しみかたは自由自在。寒い季節だからこそ楽しめる、そんな一風変わったマルシェにぜひお越しください。

※「ちっちゃい火を囲む」（通称：ちび火）とは？：
公共空間で焚き火を行なう活動。2008年大阪大学有志と共に開始。焚き火場が醸し出すやわらかな関係性の創出を通してコミュニティの活性化を試みます。
ー
開催日時：2016年1月30日（土）11:00〜17:00
会場：江之子島文化芸術創造センター駐車場
参加費無料、小雨決行

[同時開催ワークショップ・イベント]
-DECOBOCOワークショップ[はじめての金継ぎ]
（講師：ナカムラクニオ（6次元））
-大阪成蹊大学の学生・教員によるワークショップ

大阪成蹊大学×enoco協働プロジェクト2016

## エノコどこのこ？「アートの子供！！」

今年度より始動した大阪成蹊大学造形芸術学科の教員・学生有志とenocoの協働プロジェクト。学生自ら企画を立て実現するところまでをenocoがサポートし、美術を通した社会との関わりを考え、行動することのできる人材の育成を目指します。
今年度は「enocoの館内を使いこなす」という課題に対して、「アートのもとでは大人も子供も赤ちゃんも関係なく楽しみ、夢を見る！」というテーマのもと、次世代を担う学生が、さらなる次世代である子供にも楽しんでもらえるような展覧会やワークショップを企画。総合大学という強みも活かし、スポーツなどを取り入れながら多様な活動を展開します。
ー
｜プレワークショップ｜
日時：2016年1月30日（土）10:00〜17:00
会場：ルーム4
卓球、カルタ、織物など、様々なモチーフで「遊ぶ」ワークショップを開催。（参加費無料・申込不要）

｜展覧会｜
「アートの子供の☆秘密部屋☆」
会期：2016年2月9日（火）〜14日（日）11:00〜19:00（最終日16:00まで）
会場：ルーム2ほかenoco館内各所
入場無料

＊会期中も土・祝にワークショップを開催。詳細はWebサイトにて。
＊同時期に大阪成蹊大学4回生展がルーム4で開催されます。

enocoの学校第3期　ソーシャルデザイン入門コース

## 公開プレゼンテーション

クリエイティブな発想で社会について考え、自ら行動することのできる人材育成を目指して2013年よりスタートした「enocoの学校」。約半年間にわたる「ソーシャルデザイン入門コース」の集大成として、企画提案型の公開プレゼンテーションを行います。
地域のブランド力の問題、教育問題、高齢化、食の問題、コミュニティの希薄化…現代の大阪が抱える社会課題は多岐に渡ります。さまざまなバックグラウンドと問題意識を持つ受講生たちは、ソーシャルデザインの各分野における第一人者である講師陣とともに、多彩な座学とワークショップに取り組みながらアイデアを形にする術を学んできました。今回のプレゼンテーションでは3つのチームごとに課題解決のための企画案を発表します。
またゲストクリティークとして、まちづくりや文化行政のスペシャリストをお招きするとともに、一般観覧者の皆さまとの意見交換を行う予定です。大阪の、また日本の未来についてそれぞれが考え、活発に議論することのできる場となることを期待しています。まちづくりやソーシャル・デザイン、地域振興や観光に携わっている方や関心のある方、ぜひ足をお運びください。
ー
開催日程：2016年3月19日（土）15:00〜
会場：地下1階カフェ横スペース
観覧料：無料

# エキシビションカレンダー　2016年1月 - 3月

| 月 | 会期 | 展覧会名 | ルーム |
|---|---|---|---|
| 1 | 10日(日) - 30日(土) | enoco[study?]#3展覧会『流暢な習慣』 | [ルーム2ほか] |
| | 12日(火) - 17日(日) | PhatPHOTO写真教室大阪12C卒展 | [ルーム3] |
| | 12日(火) - 17日(日) | 第2回　写真クラブ松の木会写真展 | [ルーム4] |
| | 26日(火) - 31日(日) | 奈良芸術短期大学陶芸コース作品展 | [ルーム1] |
| 2 | 2日(火) - 7日(日) | TRANS NATIONAL ART 2016 | [ルーム1,2,3] |
| | 9日(火) - 14日(日) | Portrait Session in osaka 8 | [ルーム1] |
| | 9日(火) - 14日(日) | enoco×大阪成蹊大学『アートの子供の☆秘密部屋☆』 | [ルーム2ほか] |
| | 9日(火) - 14日(日) | 大阪成蹊大学　4回生展 | [ルーム4] |
| | 16日(火) - 21日(日) | 近畿大学文芸学部芸術学科造形芸術専攻卒業制作展 | [ルーム1,2,3] |
| | 16日(火) - 21日(日) | サカナヘンノヒトタチ展 | [ルーム4] |
| | 23日(火) - 28日(日) | 大阪産業大学大学院環境デザイン専攻　修士研究展+優秀卒業研究展 | [ルーム1] |
| 3 | 1日(火) - 6日(日) | 18.20.21展 | [ルーム2] |
| | 1日(火) - 12日(土) | Breaker Project 草本利枝・写真展／トーク | [ルーム4] |
| | 8日(火) - 13日(日) | 第61回　青桃会展 | [ルーム1,2] |
| | 15日(火) - 20日(日) | 大阪府専門学校卒業制作展覧会 | [ルーム1,2,3,4] |
| | 22日(火) - 27日(日) | 大阪府　障がい福祉企画課展 | [ルーム1] |
| | 22日(火) - 27日(日) | グループ中之島絵画展 | [ルーム4] |
| | 29日(火) - 4/3日(日) | AVA ART FESTIVAL | [ルーム1] |
| | 29日(火) - 4/3日(日) | アトリエぐらんす展 | [ルーム4] |

くわしくはホームページをご覧ください　http://www.enokojima-art.jp/

## PICK UP

**enoco[study?]#3 湯川洋康・中安恵一『流暢な習慣』**

会期：2016年1月10日(日)～1月30日(土)
11:00～19:00　※月曜休
会場｜4Fルーム2ほか　入場料｜無料
主催｜大阪府立江之子島文化芸術創造
協力｜大阪市立天王寺動物園、NPO法人釜ヶ崎支援機構、
NPO法人こえとことばとこころの部屋(ココルーム)
助成｜一般財団法人地域創造

公募で選出された若手アーティストの制作活動と展覧会の開催をサポートしながら、「社会や他者との関わりを通して、アートの可能性を拓(ひら)くこと」にまつわるさまざまな問いを投げかけ合い、[study](＝能動的に勉強する・検討する・観察する・練習する)していくプログラム、enoco[study?]。
3回目を迎える今回は、湯川洋康・中安恵一の二人組が、暮らしの中に潜む「習慣」に目を向け、2015年10月より約3ヶ月間にわたって作品制作に取り組みました。大阪の都市部で丁寧なリサーチと素材の収集を重ねながら制作した複数の彫刻作品を展示室ほかenoco館内に配置し、現代社会に散らばるさざまな物事や価値観の関係性を表現します。
会期初日の1月10日(日)には、ギャラリートークとオープニングパーティーを、1月30日(土)にはアーティストトークを開催。どなたでもお気軽にご参加ください。



# 展覧会 & イベントレビュー

## あなたをうつす5つの鏡
## 5人のキュレーターによる
## 大阪府20世紀美術コレクション展

**(2015年12月15日～12月26日)**

大きな箱が開けられ、包まれていた紙が除かれると「おお！」という声があがった。現れたのは、上前智祐の大作『作品(黒)』。「写真よりずっと複雑な色合いやね」「展示にぐっと迫力がでる」と居合わせた人それぞれが作品に見入っている。5回目となった「市民キュレーターによる大阪府20世紀美術コレクション展」の搬入時のワンシーンである。

この事業は公募で選ばれた5～6人の一般市民が、大阪府が所蔵する近現代の作品約7800点から自由に作品を選び、展覧会をつくるというもの。3回のワークショップ、プランを決めての中間発表、そして実際の展示作業まで大阪新美術館建設準備室の学芸員の方々を中心に、大阪府文化・スポーツ課研究員、enocoの収蔵品担当者らがぴったりとサポートする贅沢な企画だ。

参加者は展覧会の企画はほぼ初めて。が、学芸員の方々は「専門家と違う視点がおもしろさ。本人がやりたいこと、持っているイメージをどう具体的に引き出せるかに注力しています」とのこと。なので、意外な作品が意外な組み合わせで登場する。たとえば、冒頭の上前作品の横には清水千代市の丹波窯の花器がおかれた。両脇の壁には吉原治良と津高和一。関西で活躍した抽象絵画の巨匠たちの絵画と丹波焼の"景色"が呼応しあい、実に映える。市民キュレーターの武藤祐二さん企画「シンプル」展はたった5点で見事な空間になった。

対照的に、森川佳奈さんは「食」をテーマに写真、版画、油彩画、立体など手法も作家もバラバラな23点をあえてランダムに展示。まるで驚異の部屋(15~18世紀のヨーロッパでつくられた珍品を集めた博物陳列室)のように独自の世界観をつくりあげた。他にも、岩城遥さんは「赤ちゃんの視覚」を、西山佐和さんは「余白」、杉浦友子さんは「色と動物」をテーマに個性豊かな展示をみせてくれた。

大阪には近現代の美術館は(まだ)ない。それは残念ではあるけれど、各地の美術館での市民によるコレクション展の中には、美術館の巨大な展示空間に翻弄されてしまう例も多々ある。その点、大阪のこの事業は、市民キュレーターの想いをみる人にまっすぐに届けようという意図が関係者に共有され、実現している。これは、けっこう大切なことだと思う。

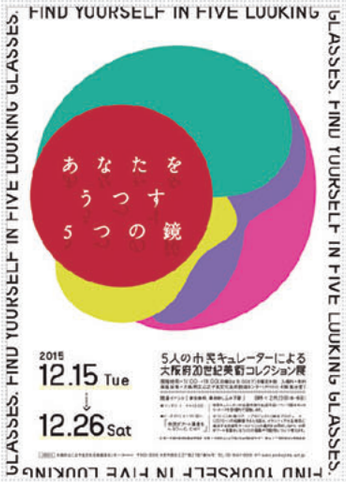
**山下里加**

やました・りか。アートジャーナリスト、大阪アーツカウンシル専門委員、京都造形芸術大学准教授。各地のアートによるまちづくりを取材・研究。

展示風景

ワークショップの様子

展示作業の様子




展覧会ポスター
(デザイン：駒井かほり)

# これまでのイベント

## えのこじま凸凹ラジオ　開局記念放送

（2015年11月21日）

江之子島を舞台にくらしをより楽しむための文化活動を行う「DECOBOCO」と連携して、江之子島（の2丁目付近）だけで聴くことのできるFMラジオ局を開局。去る11/21、気持ちのよい秋晴れに恵まれた「えのこdeマルシェ」会場にて、開局記念の公開放送を行いました。初日ということで、まずはスタッフが代わる代わるDJを務め、マルシェの出店者の皆さんや、大阪市西区の高野賢区長などにもゲストとしてご出演いただきました。

このラジオは、通常のラジオ放送と異なりさまざまな人が発信者になることができるのが特徴。ラジオ・アーティストである毛原大樹さんにもご協力いただき、今後は番組制作ワークショップや公開企画会議などを開催していきます（最新情報はWebにてお知らせ予定）。もちろん江之子島の住民以外の方々も参加可能です。放送は不定期、受信する場所や機材の状態によっては聴こえにくいこともある…。アナログだけれどチャーミングな凸凹なラジオの今後をどうぞお楽しみに。

高坂玲子／enoco企画部門

## enoco［study?］#3　湯川洋康・中安恵一　中間報告会＆レビュー

（2015年11月29日）

若手アーティストのサポートプログラムとして2013年にスタートしたenoco［study?］、第3回の公募入選者である湯川洋康さんと中安恵一さんの2人による制作活動もいよいよ後半戦。この日は、2016年1月開催予定の展覧会に向けての中間報告会が開催されました。

まずは過去の作品や展覧会についてのプレゼンテーションから始まり、天王寺動物園や釜ヶ崎エリアなど大阪の都心部に通いながら行ったリサーチと素材収集にまつわる活動記録を紹介。さらにはこれまでに集めた膨大な量の羽根や空き缶などを素材とする彫刻作品を制作中のアトリエを公開し、彼らのこれまでの活動を凝縮した濃密な2時間となりました。レビュアーの平田剛志さん、宮本典子さんのほか、一般参加者を交えての活発なディスカッションも行われ、アーティスト2人にとって大きなヒントと刺激にあふれた機会となったことと思います。また鑑賞する側にとっては、制作のプロセスを深く知ることが、美術作品の新しい見かたに繋がるということを改めてた感じた夜でもありました。

峯恵子／enoco企画部門

## ［eno so done!2015］　連続フォーラム：第1回「市民協働」

（2015年12月4日／@enocoルーム4）

フォーラム・交流会の様子

安威川ダムフェスティバルの様子

さまざまな地域の課題に取り組む行政や市民団体の悩みに答えるプログラム［eno so done!］。今年度は専門家とともに深い議論を交わすフォーラム形式で実施し、課題解決のヒントを探っていきます。第1回目のテーマは「市民協働」。改めて「協働」について考えることを入り口とした講義や、大阪市鶴見区の鶴見活性化楽園会議、大阪府の安威川ダムにおける市民協働の事例紹介とともに、実際の活動から見える課題や意識すべきポイントなどを交えた具体的なパネルディスカッションが展開されました。

講師の松下啓一氏（相模女子大）によるご自身の協働体験をもとにした講演からは、「もう一つの公共」という発想から見えてくる直接的、間接的な活動のスタイルが示され、協働の多様性を捉える視点を持つとともに、行政だけが公共の担い手であるという考えを捨て、市民も公共の担い手であるという考え方が不可欠のようです。また関わる一人ひとりが自分の言葉で協働について語れるようになることで、個人の行動原理や力をより発揮できることにもつながるのでは、という考えが示されました。

後半のパネルディスカッションでは、実践して示すことでの価値観共有や、取り組む事業（イベントなど）の意味とブレない目標設定を常に確認できる場所づくりの必要性を感じました。また若い世代にとっては、関わるメリットやそこでの経験が職能として活かせるような、教育的な側面の場所づくりも不可欠だという点は非常に印象的です。関わる「皆さん」ではなく「あなた」が何をしたいのか？「自分ごと」としてどう考えていけるのか？など関わる人たち同士で実践しながら色々なルールづくりや議論を深め更に実践する、といった自治につながる精神の不可欠さも改めて感じました。

［eno so done!］では引き続き、「地域とアート」をテーマとしたフォーラムを、2016年3月4日に開催する予定としています。

松本拓／enoco企画部門

# enoco のひとびと

新年あけましておめでとうございます。今年は申(さる)年ですが、伸一という私の名前には申が含まれていて、加えて「一」番だから今年はとても縁起が良いのだと教えてもらいました。はい。enocoの5年目、2016年もよろしくお願いします。(プログラムディレクター高岡伸一)

最近、マルシェの担当をしているのですが、出店者の方とのやりとりを行っているうちに、各種の申請方法や法務関係に(保健所や消防、販売免許関係など…)異常に詳しくなってきています。社会には様々な決まりごとがあるのですね…。(アートコーディネーター吉原和音)

振り返ると2015年はことごとく見たい映画を見逃し、気がつけば出かけたい演劇、ライブ終わってばっかりの1年だったなぁ、、、。今年こそオンとオフをうまく入れ替えて、興味のアンテナ感度を磨いて情報のアップグレード頑張りたいです。(コーディネーター松本拓)

## 旅する研究所 enocolumn 08

**enocoに関わる創造人たちによるコラム。**
**主催事業「enocoの学校」から生まれた「大阪おせっかい研究所」所長の林さん、お願いします。**

「大阪おせっかい研究所」の立ち上げメンバーによる初めてのミーティングが開催されたのは、今年の2月、大阪・グランフロントにあるカフェでした。でもそれからなぜか、あまり同じ場所で集まっていません。阿波座の中華料理屋→なんばのカフェ→千日前のお好み焼き屋→森ノ宮に住んでいるメンバーの家→大阪城公園のキッチンカー前→天王寺のカフェ→メンバーの勤務先→阿倍野の生涯学習センター…と、大阪を旅しています。まぁ研究所という名前なのに研究所(拠点)が無かったので仕方のないことではありますが、当然これは非効率で、「明日、結局どこなの!?」とモメたことは少なくありません。ただ今となっては、それが良い流れを作ったのでは思っています。

振り返ると、プレゼンやイベントの本番が近くなってくると、メンバー内にイライラが立ち込めることもありました。そんなとき、ブレイクスルーの一助となったのは「旅」だったと思うのです。例えば新しいカフェに集まれば、必然的に新しいコーヒーを飲んでスイーツを食べて、癒されてしまう。すると追い詰められていても、「甘いもの食べたんだったら頭使わなきゃしょうがない、頑張って考えようよ。」と、なんだか和んじゃうわけです。もし毎回「○○駅近くの貸会議室」とかだったら、今頃ケンカ別れしていたでしょう。だから、たまにはふらっと旅して打ち合わせしてみることは、今後も大切にしていきたいことのひとつです。

**林佑磨**
大阪おせっかい研究所 所長

はやし・ゆうま

1988年愛知県名古屋市生まれ。2013年より大阪に来て、まだ3年目。enoco主催のプログラム「enocoの学校」の2期生として「おせっかいLab.」を結成し、のちに「enocoの学校」卒業生のメンバー7人とともに「大阪おせっかい研究所」を再編成。「相手がよろこぶおせっかい」ができる人を増やし、大阪を世界的に魅力ある都市に進化させることを目論む。最近は、外国人観光客に対しておせっかいをしたい人をちょっと後押しするミニミニ英会話イベントや、商店街でのフィールドワークを実験中。

## 館長 甲賀雅章の アートの航海 Voyage d'Art Vol.4

### 「観察、洞察、共感。まちをデザインする。」

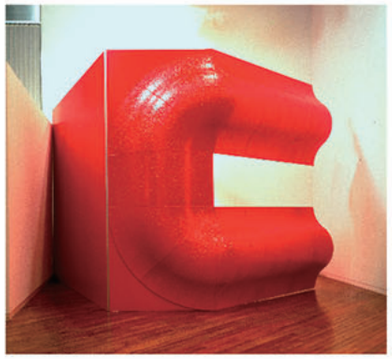
私が生まれ育ったのは、静岡市である。魅力度調査でも100位に入らない、特徴のない政令指定都市であるが、ことストリートパフォーマンスの世界においては様相が違う。業界関係者、ファンの中で「大道芸ワールドカップin静岡」の名前を知らない人はいない。開催期間の4日間で100万人を超す人々が、県内外、国外からも訪れる。私は準備段階からこのフェスティバルのプロデューサーを務めている。

「なぜ始めたのか?」答えは明確である。静岡市における、市民意識、芸術文化に対する理解、経済の三つの活性化のためである。私は、これをイベント企画だとは思っていない。「まちをデザインする」という意識を持っている。では「なぜ大道芸なのか?」一つは都市の文明化、同一化、箱モノ行政への批判であり、これからのまちのデザインの主軸を芸術文化の日常化へと移すべきであると感じていたからだ。このフェスティバルがスタートする二年前から、「まちは劇場である。そこがアートエネルギーで満たされた時、人もまちも素敵に変わる。」をコンセプトに、静岡野外文化祭を企画運営してきた。劇場にあまり足を運ばない静岡人に、果たしてアートが受け入れられるのか。それは一つの観察、実験の機会でもあった。

11月に24回目のフェスティバルを終え、確実にまちは劇場になり、市民に欠かせない祭りとして受け入れられ、人々のアートに対する理解力は高まっている。デザインは新しい価値を生み出す。デザインに必要な三要素は、観察、洞察、共感だと私は思う。まちには、そのまちに合ったデザインが必要だ。私が「まちは劇場」を言い始めてから26年が経った。静岡市は、今年から「まちは劇場」プロジェクトをスタートさせた。

## この一点! 大阪府20世紀美術コレクション

**1987年から2007年にかけて大阪府が収集した「大阪府20世紀美術コレクション」。総数およそ7800点の中から、enocoスタッフのおすすめ作品を毎号1点ずつご紹介します。**



**「FIGURE-E」清水九兵衛(1922–2006)**
1989年|アルミニウム・塗料
サイズ:251cm×390cm×310cm

今回ご紹介するのは、金属素材の抽象彫刻で知られ、清水焼の七代目としても活躍した清水九兵衛による彫刻作品です。

戦前、建築を学んだ清水でしたが、帰国後に入学した東京藝術大学鋳金科では彫刻を専攻します。また京都の清水焼の名跡、六代清水六兵衛の養子となり作陶にも携わっていきます。作陶を続ける間もヨーロッパ、特にイタリアの現代彫刻と、公共空間や古い建築空間への調和性に強い関心を持ち続け、1970年代ごろからアルミニウムによる曲線や直線や円筒形などを組み合わせた抽象的な彫刻作品を制作するようになります。

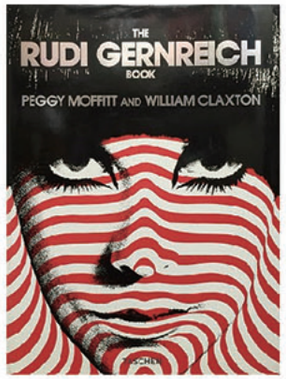
建築→彫刻→陶芸という多様な表現方法と素材の変遷を経て、日本の風土に適応する近代彫刻の可能性を探求することとなった清水は、作品が周囲の環境に自然に溶け込み調和するアフィニティー(AFFINITY=親和)をテーマとし、ビルの公開空地や広場や駅など、公共空間に置かれるパブリック・アートも多く手がけています。

現在も、収蔵品の一部は大阪モノレール駅や大阪府庁咲洲庁舎1階ギャラリーなどに展示されています。ぜひ間近で鑑賞してみてください。

**吉原 和音**
enoco企画部門

## オン★ザ★レビュー

**enoco地下1階の古書店、オン・ザ・ブックス米田店長によるブックレビュー。アートブック・写真集・デザイン・建築・ファッションからマンガ・音楽・映画・オカルトまで、多彩なラインナップの中から、今の気分をあらわす1冊をご紹介いただきます。**




**[The Rudi Gernreich Book
Peggy Moffitt & William Claxton]**

1960年代〜70年代に発表した斬新なファッションで、世間の度肝を抜いたファッションデザイナー、ルディ・ガーンライヒの作品集です。ミニスカートでさえ非難された保守的な時代にトップレス水着を発表。それってパンツ一丁って言うんやで・・・と突っ込まざるを得ない大胆不敵なアプローチ。しかし当時のファッショニスタたちは流行を恐れることなく取り入れ、トップレス水着でビーチを闊歩していたそうです。自由と解放が叫ばれた60年代。出るべくして出てきたファッションなのかもしれません。

さて、時代のカルチャーを本で読み解くイベントのお知らせです。マンガ・アート・ファッションといった「カルチャー/サブカルチャー」をテーマに、関西の古本屋6店舗による古本市を開催します。2016年1月13日〜19日:阪急うめだ本店10Fスークにて。是非お越し下さい!

**ON THE BOOKS**
営業時間:11:00−20:00(月曜日定休)
掲載の書籍は店頭・オンラインストアで販売中 **www.on-the-books.info**

**米田 雅明**
オン・ザ・ブックス店長

enocoではシェアオフィス入居者&ホームページ広告バナー随時募集中!

enocoのある大阪市西区江之子島では、
アートやデザインのちからで、くらしをより楽しむための
文化活動「DECOBOCO（デコボコ）」が行われています。

はじめまして、やまぐちです。8月末よりDECOBOCOのお手伝いをさせて頂いています。江之子島をお散歩すると幾つか石碑があることに気がつきます。マンション建設などで街がどんどん新しくなっていく中で、ひっそりと佇む石碑から江之子島の歴史を少し感じることができますよ！[DECOBOCO スタッフ 山口桜]

1/14（木）19:30からマークスタジオで、画家の牡丹靖佳さんをゲストにギャザリング（集い）を開催します。活動内容はもちろん、趣味や生活について話をします。映像作品上映やトークの後は交流会もあります。ぜひ詳細をFacebookページでご確認の上、ご参加ください！
[DECOBOCO スタッフ 小池一馬]

# えのこじまの「フラッグスタジオ」

enocoのとなりで工事中のタワーマンション
「阿波座ライズタワーズ フラッグ46」。
ここには、DECOBOCOの活動のもうひとつの拠点となる
「フラッグスタジオ」がつくられます。その活動について、
ディレクターの後藤哲也さんに話を聞きました。

—— マークスタジオの向かい、歩いて1分もかからない場所にできるようですが、どのような違いがあるのでしょうか？

後藤　まず、大きさがちがいますね。マークスタジオの3倍ぐらいの大きさがあります。パフォーミングアートや演劇などの小講演も行えるように、簡易な舞台や音響などの設備も備わっていますよ。

—— 小劇場ということですか？

後藤　小劇場的な使い方もできますが、ワークショップやトークイベントなど多目的に利用できるスペースになればと思っています。

—— レンタルで使うこともできるのでしょうか？

後藤　もちろん。料金などの設定はこれから詰めて行くところですが、気軽に使ってもらえるような条件にしたいと思っていますね。

—— 2016年春にオープンするとのことですが、オープンイベントなどは決まっていますか？

後藤　6月にまちびらきのイベントを行う予定です。フラッグスタジオだけでなく、マークスタジオ、そしてenocoの施設もつかったイベントが一ヶ月間、いくつも行われる予定です。

—— 例えばどんなイベントですか？

後藤　先行して動いているのが、「ワールドクラウンフェスティバル」。道化師（クラウン）によるパフォーマンスや教室などが、6月4日（土）・5日（日）に行われます。

—— パフォーマンス系以外のイベントはどんな感じですか？

後藤　enocoと共催で行う展覧会や、アジアのデザイナーたちと進めているカンファレンスなど、アート・デザイン系のイベントも進行中です。オープンまでにはサイトを公開する予定ですので、気になる方はぜひチェックしてみてください。会場を使ってみたいという方や、講座・イベントを開きたいという方も歓迎ですので、気軽にコンタクトしてみてください。

フラッグスタジオ、マークスタジオに関するお問い合わせは
studio@bocode.co まで

工事中のフラッグスタジオ。面積だけでなく天井も高くつくられています

約30名座れる座席は収納可能。目的に応じて床のマットも変更できます

## イベント情報

Facebookページ｜www.facebook.com/bankofcreativeosaka

「金継ぎ」とは、割れたり欠けたりした陶磁器を漆で接着し、継ぎ目を金や銀などで飾る修理法のこと。修理後の継ぎ目を「景色」と見立てて楽しむのが特徴で、室町時代に茶道の普及とともに盛んになったといわれています。今回のワークショップは、かぶれない新漆を使った初心者向け。大切な器を気軽に直してみませんか？

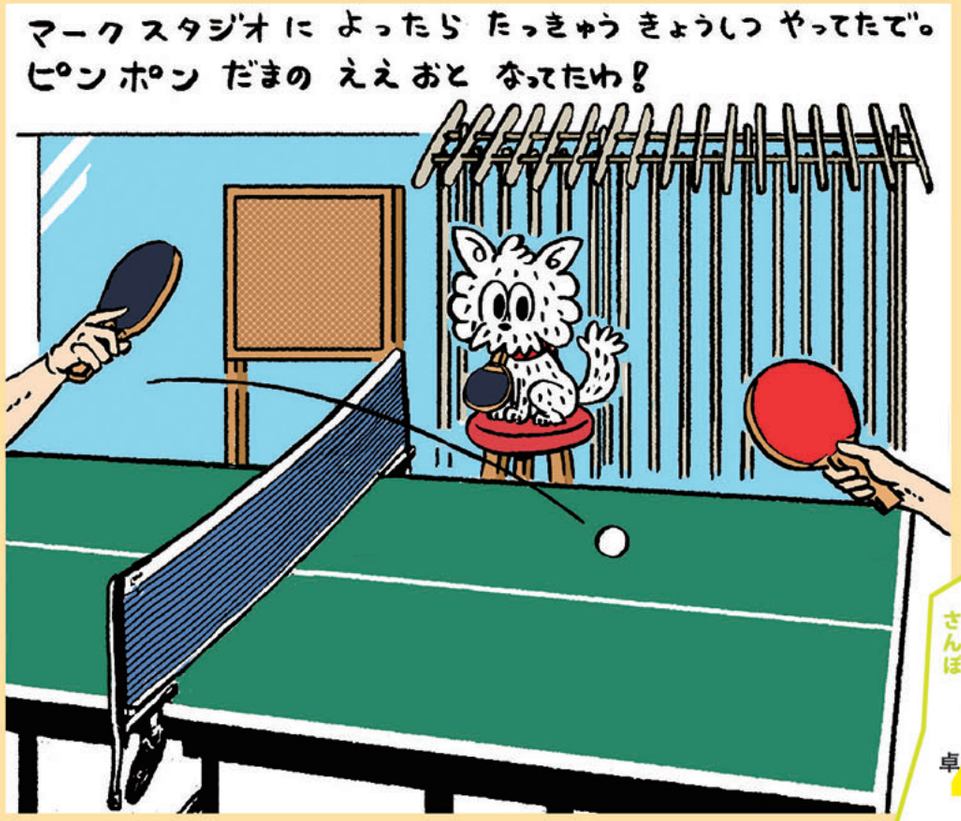
【講師】ナカムラクニオ
1971年東京生まれ。映像ディレクター・ブックカフェ「6 次元」店主。NHK WORLDなど国際放送番組の演出をしながら、実験的なギャラリー、古書店、カフェなどを運営。日本全国で「金継ぎ」の普及活動中。著書に『人が集まる「つなぎ場」のつくり方〜都市型茶室「6次元」の発想とは』『さんぽで感じる村上春樹』など。http://www.6jigen.com

最新情報はFacebookページをチェックしてみてください。

昨年マークスタジオにて開催された金継ワークショップの様子

**DECOBOCOワークショップ「はじめての金継ぎ」**
**講師：ナカムラクニオ（6次元）**

日　時｜　1月30日（土）11:00-13:00、14:00-16:00（二部制）
会　場｜　enocoルーム8




エノケン えのこじま さんぽ 4 卓球教室 ココ